

ふれあいの旅

「Donde esta・・・？」 スペイン 10 日間の旅 2008・9/29～10/8

バルセロナ（2泊）

傷害保険にも入り準備万端ととのえて、いざ出発スペインへ。

KL862は定刻にスキポール空港着。トランジットの時間は1時間！！とにかく急ぐ。

ヨーロッパの玄関口の入国審査場は人で一杯だった。幸い列はスムーズに流れ、バルセロナゆきのKL1675に搭乗。旅の最大難関乗り継ぎを無事突破。ロストバゲイジも無く、迎えの運転手さんと握手を交わし、夕刻の明るさが残るバルセロナに到着。

9/30 今日のテーマは「ガウディーと世紀末建築を巡る」

サグラダファミリア

地下鉄から地上に出ると、目の前はサグラダファミリアだった。

20年間の思いがやっと実現した一瞬。何と表現したら良いのか・・・。

体験した人だけがわかる戸惑いも混じるこの感覚。

「Buenos dias. Dos,por favor.」たどたどしいスペイン語の第一声。笑顔が返ってくる。工事中のため躯体だけの内部は、落をデザイン化したのではないかと思わせる柱と天井を自分が蟻になった気持ちで見上げる。自然界のモチーフをたくさん取り入れたユニークな教会。

「Donde esta, サン・パウ病院？」若いお嬢さんから流暢な日本語の返事が返ってきてビックリ。(サグラダファミリアのインフォメーション)

サン・パウ病院

どこか何か違う。今まで見た事がない。これもイスラムとの融合なのか？

おすすめのタバ・タバで昼食。

いわしの酢漬けがとてもオイシイ。開放的な雰囲気のパル。日本語メニュー有り。

もっと注文したかったが、カウンターのお兄さん、ちょっと機嫌が悪い。



カサ・ミラ

世界遺産が町中に点在するバルセロナ。ガイドブックが無ければ通り過ぎてしまう。

建築物は中に入ってこそ良さが楽しめる。

屋上の通気孔がユニーク。昔なら月光仮面、今はゴレンジャー？



その上アメニティセット(ポーチ入り)まで付いている。さすがTREN HOTEL。

星3つあげます。食堂車は2車両。落ち着いたテーブル席に案内される。これは私たちにとってのオリエント急行だ。

メニュー： スペインのシャンパン、カバから始まり次はワイン(ハーフボトルまたはフルボトルどちらでも良い。)

前菜 Mad fish(鰯)の酢漬け、パプリカ、ナスの油いため

主菜 子牛のグリル、パプリカ添え

デザート プリンのカaramelソースしたて / エスプレッソ

こちらに来て初めて落ち着いた夕食をとる。食事に満足し、心身ともにリラックス。

シャワーを済ませ、眠りに付く。ゴットンと揺れるのさへ心地よい。

(上段の夫は良く眠れなかったそうです。ゴメンナサイ。)

10/02 グラナダ (1泊) / アルハンブラ宮殿

08:40 着

この時間はまだ人通りも少なく、駅前には閑散としていた。

ホテルでチェックインとフラメンコの予約を済ませ、早々にヌエバ広場に向かう。

32番のバスは坂道を15分ほど登り、アルハンブラ宮殿の入り口に到着。

ヘネラリフェ庭園

庭園までの坂道を登る。朝の光の中、ここから見える街の眺めがすばらしい。

遠くにシエラ・ネバダ山脈が見える。花と緑のオアシスはこの山々の雪解け水を利用してと言う。



ナスル朝宮殿

夫の第一希望はここだった

13:00の予約。30分も前から待機。

宮殿内部は金、赤色がわずかに残る精巧なアラベスク模様で埋め尽くされていた。

ヨーロッパの西の果てにイスラムがあった。

ギターの名曲「アルハンブラの思い出」と如何しても印象が重ならない。

ベラの塔

フラメンコ

21:30 アルバイシンのタブラオ。

その土地によってフラメンコも様々のようで、ここのフラメンコは素朴でよりジプシー的だ。なんとベリーダンスも披露された！
とにかく眠い。フラメンコ鑑賞は気力、体力を要する。

アルハンブラ宮殿からホテルまで歩く。連日8~10時間、歩きずめで足が痛い。
個人旅行って、歩く事なんですね。

ホテル周辺に入れそうなレストランを見つけられず（昼もろくに食べていない）
困った。とにかく何か口に入れなくてはならない。
ヌエバ広場へ向かう途中、横道に入る。パン屋を、果物屋を、スーパーを見つけ
一息つく。もうこれ以上歩きたくない！

10/03 コルドバ（1泊）

Altaria 9213 グラナダ発06:42 コルドバ着09:08

ホテルが見つからない！！「Excuse me. Donde esta？」

明るくて気持ちの良いホテル。4星をあげたい。ユダヤ人街まで15分で足場も良い。

「コルドバの街路樹はオレンジだった。」

ブログの一文に魅せられて、この地にきた。オレンジだけでなく、レモン、柚子などの
柑橘類のようだ。今は青く小さなレモンが愛らしい。

メスキータ

イスラム教、キリスト教、ユダヤ教が入り交ざり、まさに世界史の一部をみる思いだ。
民族闘争の跡が生々しい。

カサ・アンダルシ



狭い路地を中にして家並みがつづくユダヤ人街。

カサ・アンダルシの門を潜ると何とそこは、花と緑が一杯のパティオだった！
イスラム人の美的感覚に共感する。

El Rincon de Carmen

本日のランチ 12ユーロ

ワイン 又は ビール

前菜 ガスパッチョ 又は いんげん豆のスープ

主菜 生ハムと牛肉を芯にフランクフルトの様に揚げた料理

コーヒー 又は デザート

秋のさわやかな日差し、緑いっぱいパティオでのおいしい料理に満足。
旅の緊張を和らげる、幸せなひとときだった。



ピアナ宮殿

ユダヤ人街を歩いていると、半開きの扉からパティオが見える。どの家も素晴らしい。急ぎょパティオの博物館といわれるこの宮殿に向かう。

訪れる人々はゆったりと楽しんでいた。わたしのお気に入り。

アルカサル

金曜日は無料。そして今日は金曜日。

10/04 マドリッド (3泊)

AVE 2081 コルドバ発09:29 マドリッド着11:15

バルセロナを皮切りに RENFE, Alaria, AVE、スペインを代表する鉄道を乗り継ぎ、とうとう終着地のマドリッドまで来た。マドリッドは大きかった。道路も建物も。チェックイン後軽く昼食をとり、まずは王宮へ。5日目ともなると、地下鉄の乗り方もスムーズ。



王宮

壮麗な建物は、煌びやか
中世の国王の贅がつくさ
れている。

プラド美術館

王宮からここまで歩いたので、閉館20:00まで2時間少々しかない。

まずはベラスケス、ゴヤを見て回る。カラバッチョも数点あった。



街路樹が美しい散歩道にオレンジ色の街灯がともり、いい雰囲気だ。

マドリッドを基点に明日はセゴビアへ、明後日はトレドへ Short trip だ。

10/05 セゴビアへ

地下鉄1号線・トリブナルから10号線に乗り換えプリンシペ・ピオへ。
バス乗り場を聞くと、セゴビア行きは1号線のチャマルティン駅だと言う。
そんな筈は無い！！日本であれだけ調べたのだから。やはりこの駅から出ている。
10時のバスに乗り1時間少々。日曜日のせいなのか早めの到着。

ローマ水道橋



アルカサル

めずらしいことだが、日本語ガイドフォンがあった。
「白雪姫」の城のモデルになったというアルカサル。
絵本の中のお城とそっくりだった。
塔があったら上らずにいけない。
156段の階段は相当にきつい。

ラ・クエバ・デ・サン・エステバン

地元客に人気のレストランを探し出し、今日のメインディッシュとなる昼食を楽しむ。例のごとくワインからデザートまで。15ユーロ。

肉料理 : 牛スネ肉の煮込み フォンドボー仕立て

魚料理 : タラのソテー

18:00のバスでマドリッドへ戻る。

10/06 トレドへ

とうとう旅の最後の日となってしまった。

南バスターミナルから、Alsa社の10時発のバスに乗る。

トレドの街も丘の上にある。そびえるアルカサルを目印に坂を上りつづけ、ソコドバール広場に到着。タホ川に沿って街の外側を半周するソコトレイン乗ってみた。



ソコトレイン

秋の日差しの中、ソコトレインにゆらけているとなぜか顔がほころぶ。
川越しに見るトレドはきれいだった。

ロベス・デ・トレド

ワインを飲み油漬けのオリーブを食べながら、13:30から始まるランチ時間を待つ。
オリーブの味付けもいろいろあるようだ。
本日のランチは11ユーロ。オリーブも料理も美味しい。
その上、最高にリーズナブル。ワイン 又は ビール

前菜 季節のサラダ 又は 大豆のスープ
主菜 ゆで卵料理 (おいしい!)
又は 子牛のソテー
3種のデザートから選択
大瓶の飲料水までも付いている。



サンタ・クルス美術館

スペインには無料では入れる美術館が数箇所ある。ここもその一つ。
陶器収集の部屋が面白い。

ホテルへ戻ると、20:00に近かった。
最後の晩はマヨール広場でビールを飲み、旅情に浸りたかったがホテルへ直帰。
マドリッドで一番の老舗・コラル・デ・ラ・モレリアでフラメンコを観られなかった
事がいつまでも心に残る。
荷造りをすませ、スペイン最後の眠りに着く…

10/07 10:30 KL1700 マドリッド 15:20 KL861 アムステルダム

10/08 09:45 成田着



2008・10・19